

令和4年度 江戸川区立葛西小学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

学校教育目標	○心ゆたかな子ども ○最後までやり抜く子ども	○よく考える子ども ○健康な子ども	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・保護者にとって、子どもを通わせてよかった、と思える学校 ・「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」をバランスよく備えた子ども ・人権尊重の精神に富む教師。保護者や地域との連携に努め、誰からも慕われる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>新型コロナウイルス感染症の影響で一昨年実施できなかった運動会や学習発表会などの行事を、感染予防に努めながら実施することができた。外国語科や外国語活動と中学校の英語科の連携授業や算数科の研究における中学校教員からの助言、小中合同の防災訓練の実施など小中連携の推進を図ることができた。</p> <p><課題>若い教員が増える中で、授業力・指導力の向上、同時に学習用タブレットやiPadを活用した授業の展開を図り、児童にとって分かりやすい授業を実施していくこと。不登校対策支援シートの継続的な作成と、不登校児童を0にすること。</p>			

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施や充実	・全教員の授業公開を年間1回以上行う。 ・第6学年では教科担任制を活用し、教師の授業力向上と授業内容の工夫や改善を行う。 ・児童のiPad活用を促すとともに、「eライブラリアドバンス 江戸川っ子study week」を学期に1回実施。 ・放課後に補習教室を実施する。	・国語や算数における単元末のテストで正答率が8割以上の児童を低学年であれば9割、高学年であれば8割以上を目指す。 ・放課後の補習教室の実施回数を年間35回以上にする。	B	C	・校内研究と兼ねて全教員が授業を公開し、互いに助言やアドバイスをを行い、授業力向上に努めている。 ・教科や単元によって単元末テストの結果は異なるが、国語や算数において平均して低学年では約7割、高学年では約6割の児童が8割の点数をとった。 ・児童が授業でタブレットを使う頻度が増え、調べ学習や資料作りをスムーズに行えるようになった。 ・補習教室を定期的実施している。	B	・校内研究会を通して、全教員で力を伸ばそうとしていることは素晴らしいと感じます。算数科だけでなく、様々な教科で授業力の向上をお願いします。 ・タブレットの使用については、児童の習得の速さに驚いています。同時にルールを徹底していく必要があると感じます。 ・補習教室を定期的実施している。	・学力の向上は本校の大きな課題であるという意識を全教職員がもち、その改善に取り組んでいく。基礎基本を大切にし、繰り返し問題を解く時間を児童がもてるように補習の時間を設定する。 ・タブレットの使うことにおいて、SNSルールとともに学校全体で決まりを徹底していく。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施、充実	・「葛小遊びタイム」の計画を立て、運動が苦手な児童の運動への参加を促す。 ・走る、投げるを中心とした運動の充実。 ・冬期、持久走タイムの実施。 ・長縄跳び記録会の実施。	・年間における「葛小遊びタイム」の実施を20回以上と設定する。 ・持久走の記録の伸びを見る。初回の記録から、記録会までのタイムを用紙に残していく。 ・長縄跳び記録会において、26学級が目標に定めた記録を更新する。	B	未	・「葛小遊びタイム」を定期的実施し、学級で遊ぶ時間を設定することで、普段教室で過ごす児童も校庭に出るようになった。 ・持久走や長縄跳びなど、今後の取組に向けて再度実施計画を確認するとともに、児童の意欲が高まるように声を掛けていく。	B	・まだこれから実施する取組が多いようで、今後の成果に期待したいです。 ・休み時間にたくさんの子が校庭や屋内運動場で遊んでいると聞き、安心しました。	・体力の向上という視点を大切に、体を動かす活動を多く取り入れていく。体育の授業や休み時間を中心に、教室で簡単に体を動かす活動を取り入れ、定期的に行っていく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実	・図書館ボランティアによる読み語りやお話集会を充実させ、本好きの児童を増やす。 ・図書館を活用した知らべ学習を高学年は学期に1回以上実施する。 ・低学年は図書館での読書活動を毎週必ず行う。 ・区立図書館職員の巡回を活用し、図書館環境を整える。	・年間読書した本の冊数が、低学年は80冊、中学年は70冊、高学年は40冊となるようにする。 ・調べる学習への参加が30人以上となるように言葉かけを行う。 ・葛西図書館との連携を図り、本の活用の仕方等を学ぶ活動を、低学年において年間3回以上実施する。	B	B	・低学年は毎週、学校図書館にて読書活動を行っている。 ・1学期、高学年は学校図書館にある図鑑や本を活用して調べる学習を行った。2・3学期も探究的な活動を実施し、児童の力を伸ばす。 ・同様のジャンルだけでなく、様々な本に触れられるように声を掛けていく。	A	・読書を通して、児童が知識や語彙を増やすことはとても素晴らしいことです。継続的に読書の時間をもっていたいただき、本好きの子を育ててほしいです。	・読書をするだけでなく、探究的な活動を児童ができるように各学年でテーマを実践していく力を全教員に身に付けさせる。 ・引き続き、いつも同じ本を読むのではなく、様々なジャンルの本にも触れられるように促していく。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・小中学校教員の授業交流 ・授業でのALTによる正しい発音の提示 ・休み時間のALTとの交流	・中学校教諭とともに作成した指導案による授業を実施年2回以上実施する。 ・中学校教員の乗り入れ授業を6年生で各クラス2回ずつ行う。	A	B	・中学校教諭とともに5年生外国語科の指導案を作成し、授業を実施した。小学校教諭もたくさん参観し、授業作りの参考にすることができた。 ・授業の中で児童がALTの発する英語を聴くことで、児童の英語への理解が深まった。 ・担任の授業力の向上は今後も課題である。	A	・中学校の先生方の力を借りて授業をつくりたいという発想はとても素晴らしいと感じます。先生方の授業力の向上を望みます。	・中学校との連携を深めつつ、ただ見たり聞いたりするのではなく、自分で実際に実践していく力を全教員に身に付けさせる。 ・同学年担当の教員で互いに授業を参観し、助言やアドバイスをしていく。
	特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・巡回指導員による研修会を1学期の早い段階で実施し、個に応じた指導の共通理解を図る。 ・校内委員会の内容を全教職員で共有し、支援の方向性を理解して実践する。 ・特別支援専門員、心理士、スクールカウンセラーとの連携を通して児童に対応できるようにする。	・保護者による学校評価での肯定的評価を9割以上とする。 ・巡回指導教員との情報共有を毎回行う。	A	B	・巡回指導員による特別支援教育についての理解を深めるための研修を実施。教員の理解が深まった。 ・巡回指導教員と担任が情報共有することで、担任は普段の教室での生活や学習に活かせる方法を身に付けることができた。 ・今後もさらに特別支援を要する児童への対応や指導の仕方を、学校全体で共有していく。	B	・特別支援教育について、学校全体で共通認識をもち、個に応じた指導をしてくださっていることは素晴らしいと感じます。 ・実際にどのような指導を行い、どのような成果が出ているのかを示していただくとありがたいです。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	・情報共有を密に行い、いじめについては組織的に対応していく。 ・不登校児童分析シートを活用して、不登校傾向の分析を行う。 ・週に1回の生活指導夕会で教員間の情報共有を行う。 ・年3回の生活指導全体会の実施	・いじめや不登校の早期発見、早期解決。 ・年度末にいじめや、不登校の未解決を0にする。 ・不登校児童分析シートの継続的な作成。	B	C	・教員間で児童の情報を共有することで、早期に児童への対応ができ、大きいいじめやトラブルを未然に防ぐことができた。 ・不登校児童の改善に今後も取り組んでいくとともに、新たな不登校児童が生じないように不登校個人カルテを活用したり、日々様子を観察したりしていく。	A	・大きいいじめやトラブルを未然に防ぐことができていのは成果と捉えてよいのではないかと感じます。 ・不登校児童が0になるように、今後も取組をお願いします。	・校内での情報共有はできていないが、不登校児童への対応はまだ不十分などところがある。不登校児童に対して担任だけでなく養護教諭やスクールカウンセラー、SSWが関わっていただけるように校内の体制を築いていく。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	・教育活動の改善や充実に向けた学校関係者評価の実施、改善	・学校評議員会や民生委員との連絡会議で、学校関係者評価を実施し、進捗状況や内容の見直しを図っていく。	・学校関係者評価の内容に関して、肯定的な意見が年度末に80%以上となるようにする。	B	B	・学校評議員や民生児童委員との情報交換の中で、学校にとって有益な児童の情報を得ることができた。学校にとって改善すべき視点を連絡会議の中で把握することができた。	B	・学校評議員、民生委員の発言を受け止め、改善すべき点は、前向きに検討していただいています。 ・今後はフィードバックの機会があると良いと考えます。	・2回の学校評議員会において、貴重な意見をいただいている。いただいたご意見をもとに、改善すべき点を明確にして取り組んでいく。
	家庭や地域との連携	・家庭や地域、学校との連携を図る。	・年4回の土曜授業公開や運動会、展覧会において保護者から感想や意見を募り、改善を図る一助とする。 ・学級での様子を学級便りや保護者会を通して保護者に伝える。	・年度末の学校評価アンケートにおいて、「本校に通わせて良かった」という質問項目に対して、80%以上の肯定的意見を目指す。	B	未	・学校公開や行事において募った保護者からの意見を各担当で検討し、次年度に向けて改善を図っている。 ・学級便りを定期的に作成している教員とそうでない教員との差がある。	A	・学校公開や行事において保護者からの意見にも意識をしてくださっていることに安心感をもちました。	・学校の教育活動の様子をHPにアップする頻度を増やし、保護者に伝えていく。
特色ある教育の展開	「学校における働き改革プラン」	・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・スクールサポートスタッフの有効活用を行う。 ・副校長補佐を導入し、副校長の働き方改革を推進する。	・教員、副校長の10月以降の勤務時間が月10時間以上の軽減を図る。	B	C	・スクールサポートスタッフによって教員の事務的な仕事における時間が軽減されている。 ・副校長補佐による副校長の勤務時間の軽減はまだ達成されていない。副校長補佐の仕事内容を明確にし、副校長の勤務とはっきりと分ける。	C	・業務の見直しやデジタル化により、副校長だけでなく、教員全員の残業時間が減少するよう、継続した取組が必要であると考えます。	・SSWとの連携や校内業務の効率化を図り、学校全体の働き方改革を遂行していく。
	小中連携教育の更なる推進	「小中を通じたカリキュラム・マネジメント」による学力の向上及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・校内研究や研修を核として、算数や数学の系統性を確立する。 ・外国語活動、外国語科の授業づくりを中学校教諭と行う。	・小中学校の算数や数学の授業参観を学期1回以上行う。 ・小中相互授業参観を毎月1回実施する。	B	B	・中学校の数学科の授業を参観することで、小学校の算数科の内容との系統性を意識することができ、授業で重要視すべき事柄を理解することができた。 ・授業だけではなく小中の連携の仕方をさらに考えていく。	A	・本校の特徴を存分に活かして取り組んでいることが感じられます。今後も更なる連携を望みます。	・小中相互に授業を参観する機会を大切にし、参観したことを授業で活かしていくように全教員が心掛けていく。
	国際理解教育の推進	日本語学級と連携した、国際理解の醸成とグローバルな視野をもつ児童の育成	・教員による、日本語学級での授業理解。 ・国際理解教室における児童の相互理解。	・全教員日本語学級の参観 ・4年生との国際理解教室実施	A	A	・国際理解教室を通して、4年生児童は他国の文化を理解することができた。 ・日本語学級担当教員が講師となり、日本語学級についての研修を校内教員向けに行ったことで、教員の日本語学級に対する理解が深まった。	A	・4年生児童においては、国際理解教室という貴重な経験を積むことができ、よいと思います。学校全体でも国際理解に対して意識を高めていけるとよいと思います。	・国際理解を通じて児童が学んだことは、相手を理解することにおいてとても大切であるということを学校全体で意識し、普段の児童の指導に活かしていく。